(1) No. 1.147

NOTICIAS DE S. PAULO

(Primeiro Diario Nipponico Publicado no Brasil)

3a. Feira 22 de Março de 1938

聖市ジョンブレア街十六番地
郵函二七六五
發行所 聖州新報社
發行人 香山六郎
購讀料 一年三〇圓
廣告料 一段七二圓

NOTICIAS DE SÃO PAULO
Caixa, 2765 — Fone, 2-5655
R. ASSEMBLÉA, 16
S. Paulo — Brasil

電話
小林 兼營利用
sr. M. Kobayashi
R. Galvão Bueno,
彼

州(シヨウ)僅か十里の彼方 砲聲微山湖岸に激し

隴海線上 敵防禦陣潰滅にひんす

（濟南二十日）十九日、韓莊を占領した我軍は二十日朝來市三十米の大運河を挟んで對岸の敵と激戰、我は激烈な十字砲火を敵に浴せ砲聲殷々として山東、江蘇省境に擴がる微山湖を搖がして 僅か十里の彼方徐州にある 敵將李宗仁の心膽を寒からしめてゐる、此大運河の一線こそ敵が徐州を守る最後の防禦線であり 我飛行機の偵察によれば 約一万の敵が大運河南岸の堅陣一帶に眞黑に群がつて 必死の防戰に努めてゐるが 空陸よりする 我猛攻に敵すべくもなく 一方、大運河に敵を强壓するや〇〇部隊の一部は疾風の如く東方沂州街道上の要害ヱキ縣を陷してキン州西南方二十里に迫り同方面の敵三個師は完全に我挾擊下に曝し出されてこゝにも殲滅の運命刻々と迫つてゐる

かくして我軍の神速と猛威の前に隴海線上防禦陣地は 今や潰滅に瀕してゐる

（蚌埠廿一日）倉林、吉田、西山各部隊は廿一日早朝雨を冒して常陽、靠兩山集、劉府集附近の敵掃蕩を開始した

我背後牽制の作戰で 敵二ケ師廣德に侵入

快！大(せん)滅戰の幕開く

二ケ師の兵力を以て蕪湖、杭州間の間隙に侵入し來つたので 新鋭なる我軍は去る十四、五日頃より湖州、杭州、蕪湖、無錫、金壇の各方面より一齊に攻擊を開始ぢりぢりと敵軍を包圍しつつある、從つて敵は今や全く袋の鼠となり殲滅の悲運を甘受するか歸順するかの岐路に立つてゐる

（宜城廿一日）我軍の津浦線北上を牽制せんと小瀬にも廣德北面の突角地帶に侵入した敵約二ケ師を包圍殲滅すべく 丹陽、宜興方面より廣德に追擊中の鷹森、田ノ上各部隊と呼應して石井部隊の一部は十九日太湖上の五峯山島に巢喰ふ敗殘兵約三百を殲滅の後、王元門に上陸し更に山岳地帶の敵を掃蕩しつゝ廿日午後江蘇浙江、安徽三省境の白けん嶺の線に達した、又湖州街道を猛進中の〇〇部隊は廿日午前〇〇に、杭州より進擊の〇〇部隊は日明頭の線に夫々進出し十九日午後廣德に入城した〇〇部隊と共に 敵約二ケ師の蟠居する三州山系に對する包圍網を茲に完成愈々痛快なる殲滅戰を展開した

（上海廿日）上海軍發表

軍は江北方面の作戰に呼應し廣德方面に侵入せる敵を擊破するため去る十四、五日蕪湖、湖州、杭州並に太湖西方地區より行動を開始し敵を擊破しつつ逐次その包圍陣を縮少しつつあり、破竹の皇軍の津浦線北上を極度に懼れた敵軍は我兵力を分散或は牽制せんため或は逆襲を試み或はゲリラ戰術を用ひるなど種々對策に腐心してゐるが最近に至り小瀬にも江南地方の我警備區域の後方を衝かんと約

議會(きぞの)の

行議のよさで 正に隔世の感

見とれた海相の姿

久米正雄

戰時議會第二日を見物した、いくら社大黨が議會能率增進を提唱してゐる際とはいへま、白くはないが――全く僕は十さか日曜まで精勵はすまいと思つてゐたら突然急に動員されてあたふた議事堂へ駈けつけた。が來て見てかういふ空氣に接し決して不平をいはふとは思はなかつた。それほど少くとも議會は眞面目でチフクリしてゐた。幾分固くなつてしやちこばつて面白くはないが――全く僕は十數年前震災議會を見たきりだが、その時分と比べると正に隔世の感さへある

議員目錄みたいなものを見ると中野寅吉なんて云ふ舊知や

喧嘩何兵衛

なんて勇名まで見えるのにその意味で、今なほ健在なのは田淵仙人一人である。何かの書籍を調べ、これも甚だいゝ光景だいゝ光景といへば軍部出身の大臣が一常識だらうが――常識の末次さん、行儀よくなつた折もう研究中の末次さん、行儀よくなつた折もう研究中の末次さん、行儀よくなつた折もう研究中

リトワニヤ遂に折れ
波國の要求を受諾す
―東歐に一大轉機來るか

（ワルソー十九日ハーバス）リトワニア政府はポーランドの最後通牒を受諾した旨公式に發表した

（カウナス十九日UP）十九日の臨時國會に於てリトワニア國副總理ジャクバス・スタニスショーキス氏は左の如く言明した

「現下國際政局考慮の結果リトワニア政府は餘儀なくポーランドの要求を受諾するに決した」

（タリン十九日UP）リトワニア政府は十九日遂にポーランドの要求に膝を屈したが同時に四十八時間以内にポ軍が國境方面より撤退さるべしとの提議を行つた、尙兩國政府の外交關係は遲くも今月三十一日迄には樹立さるべくワルソー及びカウナスに夫々公使を交換の筈である

（ワルソー十九日）リボ國境紛爭はリトワニアの屈服により解決を見たがポーランド外相ベネク大佐は十九日午前、外國記者團と會見、ポーランドは今後リトワニアの獨立を尊重する旨强調し左の如く述べた「余はポーランド政府の名に於いてリトワニア國民の獨立性を充分尊重すべき決意を有する事を茲に嚴肅に宣言するものである」

尙ワルソー外交界では今後リトワニアはポーランドとの修交條約、軍事同盟の締結關稅同盟、小數民族の解決等によりポーランドの政治圏內に入るべくこれを契機に東歐に一大轉機が齎らされやうと觀測してゐる

少數の敗殘兵除き
山西全省の平定完成
◆……鄉寧　吉縣我手に歸す

（臨汾二十日）鯉登部隊は二十日午前四時半、吉縣を占領續いて午後二時小林部隊も步早朝までに遂にこれを擊滅、武堂々入城した、かくて山西各南部殘敵大掃蕩戰開始以來三日にして敵の根據地鄉寧、吉縣は完全に我手に歸し、敗敵は支離滅裂となつて西方塢區及び北方へ潰走した、吉縣は山西省西南部の要衝で山西省要人の避難集結してゐたところである

（臨汾二十日）老獪な蔣介石のため山西最南端ち門口の渡より追ひまくられた山西、四川の雜軍は其鄉寧、吉縣附近山嶽地帶に遁入せる殘敵部隊の掃蕩を最后の止めとして敵將閻錫山が首都太原を放棄してより四ケ月、本格的南部作戰を開始してより僅かに月餘にして山西全省の平定は完成された、或ひは大行山脈の嶺傳ひに進み或ひは大行山脈の嶺を破り或ひは更に進んで古戰場として有名なかんしん嶺の天險を突破し神速果敢豪勇山嶽戰に鳴る○○部隊の奮戰とこれに協力する○○、○○各部隊の一部及び林航空部隊の强力な掩護が戰史に不滅の戰績を殘してここに臺山西の攻略を完了し僅かに邊陬山嶽地帶にまぎれ込んだ一部少數の敗殘兵を殘すのみとなつた

（大同二十日）我軍は十七日夕刻、山西省ぎせい鎭南方で共產匪約四千と遭遇、十八日來襲、城內一万の住民は危殆に瀕せんとしたが同地警備の蒙古軍は寡兵よくこれに應戰十九日午後我軍の救援を得て逐に敵を黃河左岸地區に潰走せしめた

（大同二十日）黃河左岸地區を彷徨してゐた閻錫山軍は十七日夕刻、二千五百の兵を以つて突如綏遠省托克托縣城に來襲、城內一万の住民は危殆に瀕せんとしたが同地警備の蒙古軍は寡兵よくこれに應戰十九日午後我軍の救援を得て逐に敵を黃河左岸地區に潰走せしめた

「日支親善に」
親子揃つて努力します」
感激の　駐京城支部總領事

（東京廿一日）京城發、防共親日滿を標榜して北支政權の虎口を逃がれて安徽省の權の虎口を逃がれて安徽省の掃蕩を最后の止めとして敵敢然參加した京城駐在中國總領事范漢生氏の長男范道華君の下に來て以來、總領事館の事務を手傳ひ日支親善に献身的努力を爲してゐるが、この度突如總領事に就任し來鮮の松澤總督の熱心さに感激した范君は來鮮の前途のために一肌ぬぐこととなり來鮮の外務部長は道華君の前途のため中の相棄外務省理事官の協力を得て同君を東京に送ることとなつた、同君は廿四日頃上京、東亞學校で日本語を學んだ後札幌農大で農業經濟を專攻することとなつたので外務省對支文化事業部で同君が大學を終へるまで種々の面倒を見てやることになつた、范總領事父子はこの温い日本の援助に對し「親子揃つて日支親善のために粉骨碎身の奮勵を誓ひます」と感激と決意を語つた

墨大統領の英斷
英米石油會社十七社の
所有財產沒收宣言

（メキシコ十九日AP）カルデナス大統領は在メキシコ十七英米石油會社所有財產の沒收を決行すべく手續を決めて本日午前十時、內閣會議に附し、右案件は直ちに上院に送られ、上院は直ちに之を可決した、右案件は直ちに下院に送られ、下院は直ちに之を可決した、右案件は直ちに下院に送られ、下院は直ちに之を可決した、右案件は直ちに上院に送られ、上

科學捜査に擧る凱歌

支那料理店四人殺し

遂に眞犯人を捕縛

金欲しさから此の犯行

半黑の元傭人

兇惡一世を愕かした稀代の殺害犯人、支那料理店四人殺しの行方は其後不安と恐怖の中に滿都の視聽を浴び、當局必死の活動にも不拘依然として不明……、時に邦人の拘引を見る等全く捜査の基礎を失ひ、事件は五里霧中と評され當局無能の聲さへ擧るに至つたが、突如去る十七日聖市ビツケスに於て擧動不審の一半黑青年を收容するに及び事件は急轉直下、遂に支那料理店四人殺しの一切は白日の下に曝露され、當局無能の聲は今や稱讃の嵐と變り事件發生以來十八日、緊張と疲勞の科學捜査陣は此處に始めて市民の安寧を保障し得た歡びに滿ち、科學捜査に高らかな凱歌を奏するに至つた……

去る十七處にも見當らず、その足で二日（木）ビツケス階の寢室に騙上つた所粉基の妻安徽に出會し鍵の在所を尋ねて自白を迫つたもので、安徽は最后迄知らぬ存ぜぬの一点張りで遂に絞殺されるに至つたものである

アリアスは四人を殺し乍ら目的の金庫は開かず、遂には薄氣味も惡く粉基のポルサから若干の金子を盜んで逸早く戸外に驅け出したもので警察では極力共犯ありとして追究してゐるが目下の處不明である

去る十七日午後八時半よりアラゴアス街二九六番に於てスデビエダー・デ・ミクソン主催の日本音樂の夕を開催、鈴木喜久江女史の琴、三好夫婦の三味線、尺八、木村嬢の舞踊、鶴亀、茶の湯音頭其他

「盛會だつた」日本音樂の夕

聖市一流專門家招待

去る十九日午後八時半より聖市ビネーロス分校はカトンス街に面する極美に破成を告げた大正小學校同校はカトンス街に面する極美に破成を告げた大正小學校同校は其後、聖市をめて閑靜な地で階下に三教室ビネーロス分校は其後、聖市をめて閑靜な地で階下に三教室日會の手に引渡を完了、予定と職員室を有し階上は全部ぶの如く昨日名數有志の列席のもち抜きの講堂で見下せば校庭下に盛大な開校式を擧行したには各關係役員有志が手植の記念樹を風に靡いて敎學の殿堂として鹹に相應しいと一段次いで古谷晉及會長、モラエス視學富川女兄代表等の祝辭尙同校敎師は既報の如く坂田父兄に好評を博してゐるあり式後記念撮影をなし茶菓忠夫、西江米子の兩氏である

大正小學校

ビネーロス分校

昨日盛大な開校式

バラグワ牛便り

コルメナ移住地

風景をきる

松岡又一

遍く世界を巡つて祖國に歸れば俗界より神内に入つた氣もちがすると云ふ、場面は極大みたいより極小に移るが瀟一ケ年振りでアスンシオンに出て移住地に歸つた私には砂漠からオアシスに入つたならばと想はれる程の氣もちがした、外で云ふ、場面は極大みたマイス（ミーリョの事）マンジョーカ皆慘澹たるものである、これはカニボに栽培した爲であらふが十二月の早魃に雜草を取らなかつた爲めに一層甚しく旱害を受けたものであると思ふ

足一度移住地に入れば光景は一變する

家々の屋根埋め殘す青田哉

棉畑に續いて一際鮮かな色を呈してゐるのは稻田である開拓者は今や倉庫の建增に忙しく建て終へた方も小さ過ぎる、砂漠を渡る如き熱風と連日苦闘した十二月の辛苦も酬ひられたのである、枯れた葉腳中が察せられる

アッスンシオンでは目新しいのは跡方もない、百姓の事は手にとつて見た上でなくては判ら敢穫を確保され六割を占める中稻は今は穗孕である、瑞々しい豐作が約束されたと言つて差支なからふ、棉は十二月の旱魃にも弱りをみせず（其後一ケ月の間多雨に惠まれ延びに延びたのであるが明朗な天氣を迎へると共に成熟期に入つて棉畑に肩まで埋もれて研の開く音に微笑む開拓者の力に觸れた氣がした

之はお里自慢であらふか……

球春瀾漫

賑ふ聖市球界

カ中尾16 — 5蜂谷
コアチ13 — 13日伯

代表者會議

蜂谷新會長招集の伸びた大飛球を倒れ乍ら攫んだ聖市實業リーグ第一回代表者會議は去る拾九日晩、日兩軍メンバー左の如し（球審本クラブに於て各竹田仙、壘＝木村、中林）

Mario de Andrade
Director do Departamento de Cultura Artisttca Paulo de Magalhães

伯專　渡邊剛一
照井二郎
保坂進司
榎本忠
渡邊富美代

カ中尾球場

準藤を新に得て斷然陣容の强化されてきたカ中尾が勝つ可くして勝つたと云ふ

當初蜂谷、竹内兩氏の正、副會長就任挨拶あり次いで一昨年結成以來リーグ發展の爲に努力を惜しまなかつた石原前會長の顧問に滿場一致で推戴、矢萩會計より會計引渡し、今年の予算決定、選手登錄を濟ましてて十一時散會した

カ中尾一六—五蜂谷

球突大會

盛大に終る

既報、聖市邦人撞球大會は廿日ラルゴ・ダ・セのタツコ・テ・オウロに於て開催されたが參加者約五拾名で當日の入賞者氏名左の如し

A組
一等　長野
二等　村田
三等　藤澤
B組
一等　村田
二等　中林
三等　田

コチア
（右）増田根
（三）白井中
（遊）今村（二）
（捕）廣田（遊）
（投）吉石（一）
（二）古井（左）
（中）葉田（捕）
（一）藤本（投）
（右）坂倉（二）
（左）（中）（一）

カスダンス球場

蜂谷一大谷小原
（三）竹田本泉
（左）竹田本
（中）松吉（二）
（捕）（遊）（一）
（投）小（右）
（右）高（中）
（一）山（左）
（二）白（投）
（遊）

コチア13—13日伯

廿日午後四時よりスダン球場に於て擧行されたコチア對日伯戰は日伯意外の善戰に最后までコチアを苦しめて俄然シーソ・ゲームを展開、遂に双方無既の引分け試合に了つた

（球審矢萩、壘＝江口、小田）

奥地農家豊作の裏面に躍る强盜

―のカフェーランジヤ附近

最近不景氣の深刻化につれ農產物しも相當の數に上り夜も枕を高くして寢る事が出來ず、恐怖の横行頻々として强盜侵入主人を叩き起して胸倉を引執へ一人はピストル、一人は短刀を夫々胸に擬し現金の有り場を鋭く詰問、有無を云はせず最后に虎の子二拾餅を引浚つて悠々引揚げた

日岡氏宅では丁度出荷前とて出荷を脱つて强盜の襲加者約五拾名で當日の入賞者氏名左の如し

A組
一等　長野
二等　村田
三等　藤澤

B組
一等　村田
二等　中林
三等　田

日岡氏宅では丁度出荷前とて金は無一文最后のたつた二十餅を金部持逃げられて思案に暮れたが命拾ひしたと嬉んでゐると……一件の强盜は再び引返しこれでは少くな過ぎると許り目星しい品物を物色逸早く逃亡した

この二人組は去る十三日夜、平野植民地十七區の外人宅に押入つたものと同じ手口らしいと噂られてゐるが同タンガラ植民地では警戒の爲各戸花火を買込みこれをあげて相圖の徽しとする事に決定、尙各植民地共自警團の組織に就いて寄々協議中である

―ランジヤ驛タンガラ第三區在什日岡某氏宅に二人組の强盜侵入主人を叩き起して胸倉を引執へ一人はピストル、一人は短刀を夫々胸に擬し現金の有り場を鋭く詰問、有無を云はせず最后に虎の子二拾餅を引浚つて悠々引揚げた

二人組出沒

球審矢萩、壘＝江口、小田）

大正小學校

夜學開始

サンパウロ日本人會では大正小學校の經營當初の事業として本校分びビネイロス分校に於て夜學部開設なす事となり、その準備を行つてゐたが、いよ〳〵四月三日より授業開始の段取りとなり、三月二十七日より三十日まで毎日午後二時より六時まで受付を開始する事となつた

受付の場所は大正小學校とビネイロス分校で教科は日本語科の普通科及補修科と伯語科で授業上に幻燈、映畫等を敎育普及會で便宜を計られる

カ・ジョルドン療養所

田中氏來聖

カ・ジョルドンの肺療養所長として邦人病者に親しまれてゐる田中秀穗氏が昨日來聖して來訪の記者に左の如く語つた

現在收容人員は五十八名でまだ人員は大いに擴張しなければ手狹な有樣である、これも入院費の低廉と肺病に對する智識が行き亘つた關係であると思ふ

それに此の肺病園は誰も持つてゐるものであればそれは一層危險で万一にもそんな人が肺病菌に犯されたらすぐ惡化する

病にかかると危險なのは肺病菌に對する抵抗力に乏しいからである、大いに考慮せねばならない、內務省統計によると全人口の一〇%迄は肺病人であるが決して肺病を恐れる心配はない、各自が自覺して療養すれば必らずなほる、現在のカンポスではまだ一年足らずだから全快したものと病人の統計はないが、何分にも長期を要する病氣なので四年五年と經てば統計もとれるだらう

現近某紙で報じたカ・ジョルドンの風紀問題は當地の邦人を怒らせたが肯定される由であり、授業時間は毎週土曜、日曜を除いて午後七時半より九時迄とする

授業料は各科共に各五餅、入學資格は日本語科はグルッポエスコーラ二年修了の程度以上のもので滿十歲以上のもの伯語科は滿十歲以上のものであると

母國ニュース縮刷版

制覇を目指す水上陣

（東京十一日）一九四〇年東京大會制覇四ケ年計畫第二年度の本年、日本水上聯盟では今年は中等學校選手の養成に主力を注ぎ一般各種目に亘り多數の有望選手の養成、夏には日米大會の開催等万遺憾無きを期し一回の各種目合同合宿練習を來る三月二十五日から甲子園室內水泳場に開き、女子は東京府立高女のプールに集り來る三月二十日迄の五日間に亘り中國及び九州一円の防空演習が行はれる、事變下の事でも有り先に躍鼠猫を噛むの支那空軍が同地方を狙つた事實も有り各方面一致團結して其の効果の徹底を期して居る

實彈射擊

二十二日から二十七日迄の五日間千葉縣一の宮海岸で野砲の實彈射擊が行はれる、危險區域は一の宮川口を中心に海上四千米の半円內である

天晴軍用犬

（東京十九日）去十五日南京の南我占領地城內〇〇を守る一小部隊へ敵距約八百が歡聲を上げて夜襲して來た、我軍は各員部處を守つて應戰一歩も退くなく勵合ながら約敵の三分の一は仆したが何しろ味方は無勢、全員討死の覺悟を定めてもし敵再度突激して來れば銃劍の續く限り切りまくり突まくつて共に江南の土となれと隊長は同隊に軍用犬の居たのを思ひ出し通信筒を首に結びながら何度も「賴むぞ、賴むぞ」と頭を撫でて勵した大は軍人犬と言ふ名まで有る名犬、隊の危急を察したか大きくワンと吠ると眞一文字に敵の圍を破つて飛出した、我兵は「あれ軍人か行く無事に行つた」と賴しく其の後を見送つた、巧く圍を脫けた軍用犬は一刻も早く本隊へと道を急ぐ途中飢へた支那犬二十五六頭に襲撃され必死に戰ひ八頭を噛殺し本隊へ飛込んで來た時は耳は千切れ全身血まみれで通知筒を脫されると氣がゆるんだか打倒れて立上る元氣も無い樣に見受られた急を聞いて出動する本隊の力强い足音に何度も立上らうとする愛しい健氣な樣子、兵はもう行かんで良いと抱上て手厚い看護を加へてやつた

中國九州の防空演習

來る三月二十二日より二十六日迄の五日間に亘り中國及び九州一円の防空演習が行はれる、事變下の事でも有り先に躍鼠猫を噛むの支那空軍が同地方を狙つた事實も有り各方面一致團結して其の効果の徹底を期して居る

ピリグキ邦人植民地

建設の恩人

クラーク氏逝去

廿數年前、人跡未踏の地だつたピリグキ驛に設立せられたコロニヤ植民會社の支配人として當時殖民地の今日の盛大が見られたか否かは頗る疑問とする處で氏の邦人發展の上に盡した功績は枚擧に暇ない程であつた

ピリグキ驛に設立せられたコロニヤ植民會社の支配人として當時殖民地の今日の盛大が見られたか否かは頗る疑問とする處で氏の邦人發展の上に盡した功績は枚擧に暇ない程である

古い歷史と設立の苦心を以て鳴る平野產業組合製米所は植民地一般の豐作で活潑な活動を開始してゐる

▲

カフェーランジヤ町某旅館の娘さんは感じの好い愛嬌者として一夜寢ぬ心配はない、各自が自覺して療養すれば必らずなほる、現在のカンポスではまだ一年足らずだから全快したものと病人の統計はないが、何分にも長期を要する病氣なので四年五年と經てば統計もとれるだらう

現近某紙で報じたカ・ジョルドンの風紀問題は當地の邦人を怒らせたが肯定される由であり、授業時間は毎週土曜、日曜を除いて午後七時半より九時迄とする

授業料は各科共に各五餅、入學資格は日本語科はグルッポエスコーラ二年修了の程度以上のもので滿十歲以上のもの伯語科は滿十歲以上のものであると

モザイク

誰が同旅館のカマの邊りに誰が書いたか

いつ見ても笑顏タップリ
變らぬシヤンに
逢はずに歸る
その寂しさよ

▲

プロミッソン町の鈴木季造氏最近五二一二のロチリヤ番號で當てもアテたり二十コントス一九四〇年オリンピック歸國の費用にするんだとアルゼンチンの日本人會では大正小學校の經營當初の事業として本校分びビネイロス分校に於て夜學部開設なす事となり、その準備を行つてゐたが、いよ〳〵四月三日より授業開始の段取りとなり、三月二十七日より三十日まで毎日午後二時より六時まで受付を開始する事となつた

受付の場所は大正小學校とビネイロス分校で教科は日本語科の普通科及補修科と伯語科で授業上に幻燈、映畫等を敎育普及會で便宜を計られる

▲

去る十八日同仁會に日本病院用の邦文タイプライターが到着した、同品は伯貨換算の二百餅で相當立派だが、コントス六〇〇餅で相當立派だが、コントス六〇〇餅で相當立派だが、コントス六〇〇

本紙購讀料値上げ

一ヶ年五十ミルレース也

日支事變が起きてからと云ふもの私達聖報社々員は不眠不休の努力を以つて報道戰に携はり祖國の危機を遠く望んで切歯する皆樣に瞬時も早く江南に北支に轉戰する皇軍の奮鬪振りをお報らせし度いと更に昨年八月在伯邦字紙中最初の日刊紙として多大の犧牲をも辞せず邁進して參りましたことは皆樣もよく認めて下さる事と存じます

然し乍ら度々皆樣よりお叱りをうけますものの經費其他の都合でどうしても隔日置きには二ページ發行と云ふ跛行的な往き方より出來ずこの点御愛讀を辱ふする皆樣に對して誠に申譯のない次第であると社員一同心にお詫びを申しておつた次第です

それで今回愼重案を練りました末斷然一貫する四頁發行新聞として皆樣にお目見得しようと議決したのでありますが皆樣御存知の如く最近の紙價の暴騰は非常なるものありまして日刊刊行當時に比しますればその値殆んど三割に近い程であります如何に讀者たる皆樣に忠ならんと欲してもこの自然的風潮には私達人間の力では絶對に抗し得べくもないのでありますそれで遂にこの窮狀を親愛なる皆樣に打明け購讀料値上げのお許しを得たいと思ふのです、値上げ額は二拾錢、即ち一ヶ年五十錢の購讀料となるわけです

何卒右の点御諒察下さいまして聖報紙を不變に御愛顧被下います樣願致しおきます

聖州新報社

本年度抽籤懸賞品の發表

報道の迅速充實にゐ機能を擧げて完璧「聖報」を理想として諸兄の御滿足を圖ると共に御家庭に於ける御慰籍にもと存じまて昨年度御好評を博しました大懸賞の本年度賞品の決定をみましたので此處に發表致します

何卒昨年に倍して講讀料一ヶ年分前金で御拂込みの御後援あられん事を切に御願申上げます

懸賞抽籤券規定

講讀料一ヶ年分金五十ミルを前金として御拂込み下さつた方に本抽籤券を差上げます

（但し是迄の講讀料未拂分は何卒此際御支拂ひを願ひます）

當籤の御方よりは監督局の規定により賞品價額の一割を税金として御支拂を願ひます

尙一等賞土地當籤の御方は土地登記料の御拂込み御承認を願ひます

當籤賞品に對しては送料實費を申受けます

▲一等賞品　土地拾域（但し、ブラ拓トレスパーラス移住地豐沃地）

▲二等　家具（寢台、鏡臺、箪司）　一組

▲三等　インペリアル・ミシン　一臺

▲四等　マグナホニック蓄音機　一臺

▲五等　〃　一臺

▲六等　バラゴン蓄音機　一臺

▲七等　〃　一臺

▲八等　イー治療機（浴用）　一臺

▲九等　〃　並機　一臺

▲十等　金原式治療機　一臺

▲十一等　〃　一臺

▲十二等　〃　一臺

▲十三等　富士山印醬油　一樽

▲十四等　黑島醬油　一樽

▲十五等　箪司　一棹

▲十六等　〃　一棹

▲十七等　〃　一棹

▲十八等　〃　一棹

▲十九等　台所道具（アルミ製鍋類廿一個）　一組

▲二十等　〃　一組

▲廿一等　〃　一組

▲廿二等　〃　一組

▲廿三等　枕時計　一個

▲廿四等　〃　一個

▲廿五等　〃　一個

▲廿六等　〃　一個

▲廿七等　手提鞄（女物）　一個

▲廿八等　〃　一個

▲廿九等　〃　一個

▲三十等　〃　一個

聖州新報社

四頁日刊

本紙は是迄隔日二頁發行の準日刊でしたが……

本格的に來る四月一日を期して四ページ日刊發行と致します